

虫がすむ。雑木林のビオトープづくり

カブトムシやクワガタムシのビオトープ

市内には、約360年前の新田開発^{しんでんかいはつ}に由来する雑木林が残っています。これらの雑木林のほとんどはクヌギやコナラなどの落葉広葉樹で構成され、樹木の樹液や野草の花に多くの昆虫が集まり、その昆虫や植物の実を食べに鳥が集まり多くの生きものがすんでいます。市はこれらの雑木林を保存樹林に指定し、市民団体による保全活動も行われるなど、雑木林を守り育てる活動が行われています。このような活動ではビオトープがつくられています。例えば、伐採した幹や竹などを組んで落ち葉を敷き詰めた落ち葉プールもそのひとつです。

保存樹林などに指定された雑木林では、個人で保全活動を行うことはできません。ボランティア団体などの活動に参加したり、イベントに参加したりしてビオトープづくりを行きましょう。このような活動に参加したい方は、裏面の発行先へお問い合わせください。

雑木林の伐採^{ぼうさい}や萌芽更新^{もがしん}によってできた空間は、日光が雑木林の地表面に良く届くため、野草や樹木の種が芽吹いてきます。そのような多様な植物の空間は、バッタやコオロギの仲間、これらを食べるカマキリの仲間や鳥たちがすみやすくなります。

※萌芽更新
木を伐採した後、その切り株から新しい芽がたくさん出てきます。もやわけなどの適切な管理をし、この芽を育て、15～20年後に再び伐採を繰り返すといった雑木林の若返り方を「萌芽更新」といいます。



雑木林で観察できる代表的な昆虫



ノコギリクワガタ コクワガタ アオカナブン・カナブン カブトムシ ヤマトタマシ



ヤゴ救出作戦の様子



ギンヤンマの産卵

プールのヤゴ救出作戦

オフシーズンの学校プールは、防火用水として水を張ったままにしているため、トンボの幼虫であるヤゴなどの水生生物がすんでいます。また、プールにススキやマコモなどの草の束をうかせたり、水草を入れたりすると、植物に産卵するヤンマの仲間のギンヤンマなどもすみやすくなります。

ヤゴをそのままにしておくでプール清掃時に流されてしまうため、市内の小学校ではヤゴを救出し飼育することで、子どもたちが生きものにふれあうことができる環境学習の場として活用しています。

こだいらの空高くさえずるヒバリと麦畑

ヒバリは、春にさえずりながら空高く飛んでなわばりを主張することから、春を告げる鳥として昔から親しまれてます。しかし、最近では、ヒバリの繁殖地となる麦畑や草場が少なくなり、都市部では河川敷でしか出会う機会が少なくなってきました。

こだいらでは、昔から水が乏しかったためヒエ・アワ・小麦などの穀類が耕作され、そこはヒバリの生息地になっていました。また、畑でとれた小麦をもとにした地粉で手打うどんを打つ習慣があり、この習慣を貴重な食文化として保存しているという活動が行われています。こだいらの空高くさえずるヒバリは、市の食文化の象徴でもあるわけです。



ヒバリ

ビオトープとは

ビオトープとは、生きものを意味する“bio”と、場所を意味する“top”を合成したドイツの造語 (biotop)、英語では biotope で、直訳すれば「生物生息空間」です。それは、ある生物群集が生息できるような生態学的に見ても良好な環境空間のことをいいます。

最近では、公園や校庭などに作られた生きものの生息・生育環境空間のことをいう場合もあり、トンボ、メダカ、野鳥など小動物の生息環境や郷土的な植物の生育環境を意識した空間づくりが行われています。

ビオトープ内の生きものは自然にすみつくことが基本で、ビオトープづくりは、それを手助けすることです。そこにすんでいない昆虫をつれてきたり、ペットを放したりしないようにしましょう。

身近なビオトープづくりとは

身近なビオトープづくりは、市民のみなさんにとって身近な空間である住宅の庭やベランダなどにおいて植栽の工夫をしたり、身近な生活用具や不用となった用品などを活用したりしながらビオトープづくりを行い、野生生物とのふれあいを通じて、みどりと親しみ、みどりを育てていくまちづくりをめざしています。

そのために、住宅の庭やベランダなどのスペースで、市に生息する昆虫や鳥類の生息環境を意識して植物を育てたり、鳥類の巣箱や、バードバス、落ち葉や剪定した枝を用いた昆虫類の生息・生育環境空間づくりを行ったりすることも「身近なビオトープづくり」として位置付けました。

表紙写真 上段：ルリタテハ・アキアカネ・ジョウビタキ・アゲハ
中段：エナガ・シオカラトンボ・ルリシジミ・ツグミ
下段：ショウリョウバッタ・モンキチョウ・ショウジョウトンボ・ナガサキアゲハ

表紙背景 玉川上水緑道

平成 27 年 (2015 年) 3 月発行
企画・編集 小平市・小平市身近なビオトープづくりリーフレット編集委員会
発行 小平市都市建設部水と緑と公園課 ※平成 27 年 (2015 年) 4 月より「環境部水と緑と公園課」に変更。
所在地 〒187-8701 小平市小川町二丁目 1333 番地
電話番号 042 (346) 9830 FAX 042 (346) 9513
電子メール koen@city.kodaira.lg.jp
ホームページ http://www.city.kodaira.tokyo.jp
小平市 ホームページのトップにある検索欄に「身近なビオトープ」と入力して検索してください。

本リーフレットの内容を無断で複製することを禁じます。

身近なビオトープづくりリーフレット



はじめてのビオトープ。生きものたちと生きているビオトープのまち こだいら

小平市は、みどり豊かな奥多摩や多摩湖とつながっている玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、小金井公園で構成された「小平グリーンロード」に囲まれるとともに、多くの農地や雑木林、用水路が残る みどり豊かな まちです。市では、みなさんが庭やベランダなどの身近な場所で、よりこの豊かなみどりを感じられるように、市内に生息しているチョウや鳥たちが好む花や実のなる植物を庭に植えるなどして、これらの生きものたちの新たな生息空間をつくり出す「身近なビオトープづくり」をスタートさせました。

このリーフレットは、みなさんが気軽に「身近なビオトープづくり」に取り組んだり、そこに訪れた生きものたちとのふれあいや観察を行うためのヒントや手法を説明したものです。ぜひあなたも「身近なビオトープづくり」にチャレンジして、鳥や昆虫などとふれあうことができる 水と緑の美しいまちづくりに参加してください。



小平市

